地域における体力向上コンソーシアムの構築
およびコンソーシアムによる取組実施

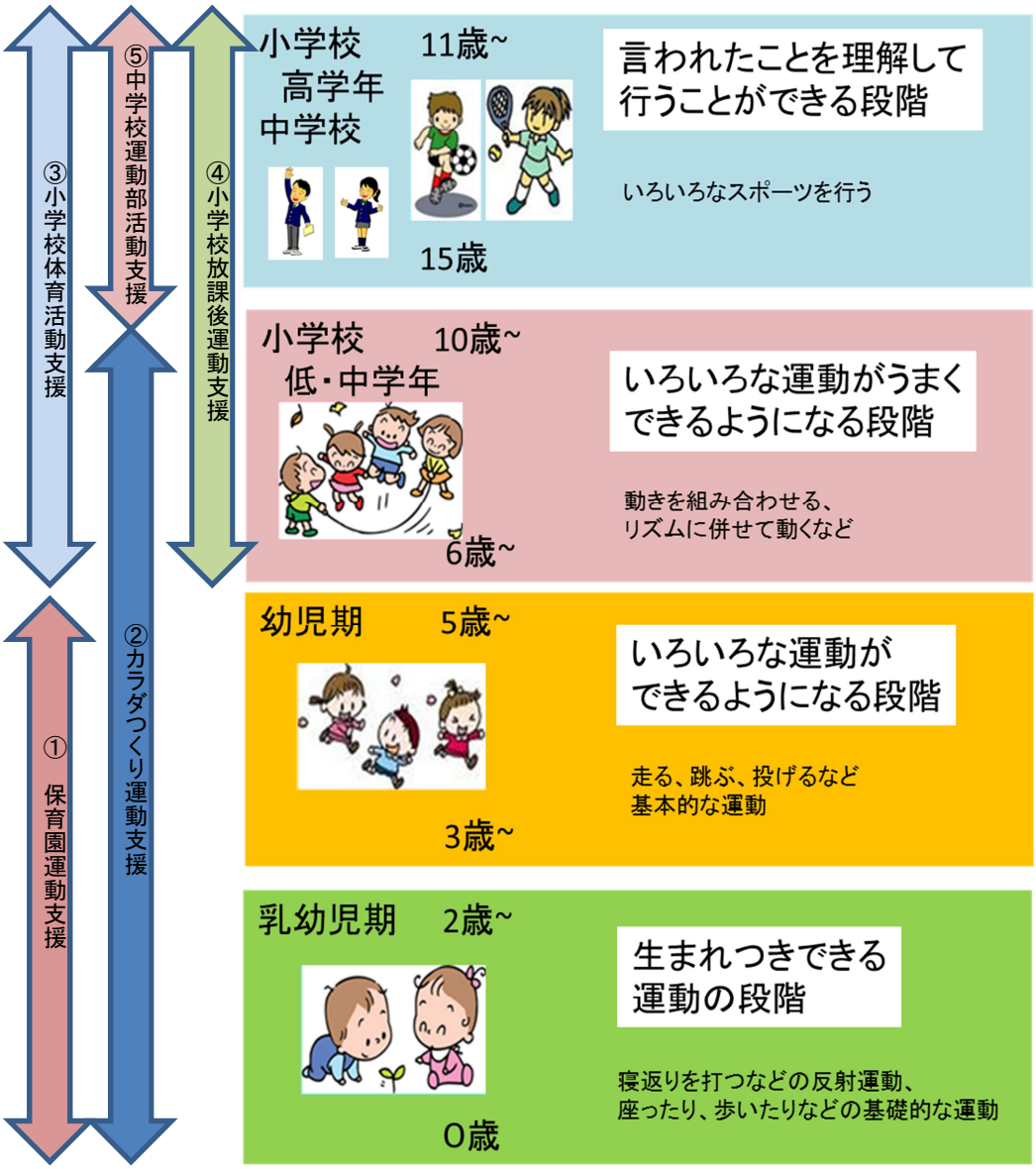
① 保育園運動支援

② カラダつくり運動支援

③ 小学校体育活動支援

④ 小学校放課後運動支援

⑤ 中学校運動部活動支援



保育園運動支援 P2

カラダつくり運動支援 P3

小学校体育活動支援 P4

小学校放課後運動支援 P5

中学校運動部活動支援 P6

横浜吉田中学校コンソーシアム

事務局　特定非営利活動法人FCゴール

〒231-0047 横浜市中区羽衣町 3-84　横浜吉田中学校内 FC ゴールハウス 2007

〒231-0048 横浜市中区蓬莱町 2-4-7　045-231-6111　hanya88@gmail.com　半谷真一

☆研究テーマ

　幼保小の連携連動による幼児期運動指針の普及と実践と研修講座の開催、小学校体育と放課後児童支援における体つくり運動および運動遊びの普及と実践と研修講座の開催、中学校運動部活動の共通トレーニング項目であるコーディネーショントレーニングの普及と実践と研修講座の開催を通して横浜吉田中学校区の子どもの体力推進向上に向けたコンソーシアムの構築を主な研究テーマとする。

①保育園運動支援

課題と目的

幼保小の連携連動による幼児期運動指針の普及と実践と研修講座の開催を通して横浜吉田中学校区の子どもの体力推進向上に向けたコンソーシアムの構築を主な研究テーマとする。

取組内容

幼児期運動指針に基づいたカラダつくり運動教室を実施により幼児期運動のオプチュニティとなるようなアクションを展開し、参加する幼児にカラダを動かす楽しさを知ってもらいながら、保育者・保護者に運動の必要性を意識啓発した。

工夫したこと

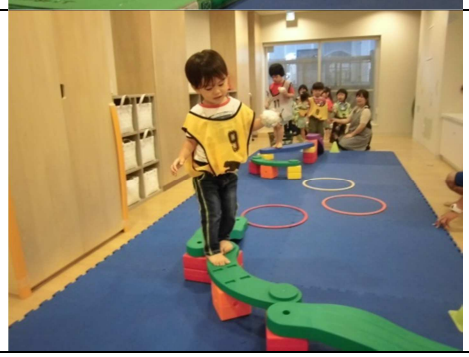
限られた時間、空間を有効に活用できるようなプログラムで幼児に大いに楽しんでもらえるようなコンテンツを開発した。その中で 36 の動きが獲得できるように工夫した。

取組の成果

回数を重ねるたびに小さな成長、大きな成長を観ることができた。保育園側からも同様の評価を得て、また保護者からも保育園側に好評かが伝えられていた。

今後の課題

小学校とどのように連携連動していくのか？保育園、学校との間に立ち支援するスタンスをもち続ける必要がある。



②カラダつくり運動支援

課題と目的

幼児期運動指針に基づいたカラダつくり運動支援を実施することにより幼児期運動のオプチュニティとなるようなアクションを展開し、参加する幼児・児童にカラダを動かす楽しさを知ってもらいながら、保護者に運動の必要性を意識啓発する。

取組内容

第 1、3 日曜日の午前中、月に 2 回の実施。前半 45 分～60 分程度の時間で多様な動きを獲得できるプログラムやコーディネーショントレーニングで構成。残りの 30 分は様々なボールゲームを楽しむ。（幼児は 60 分、児童は 90 分。）

工夫したこと

児童と未就学児が同じ時間帯で活動することにより、兄弟姉妹の同時参加が可能になり、保護者も見学や参加がしやすくなった。

楽しみながら多様な動きを獲得できるように創意工夫をし、まだまだ帰りたくないと言われるくらいに楽しさを醸し出すプログラム構成に苦慮した。

取組の成果

児童と未就学児が楽しく体を動かすことができ、もっとやり続けたくなるようなプログラムが展開できました。

この事業を通じて保護者にも運動遊びの必要についてアピールできたと思います。

今後の課題

実施頻度と会場の確保、さらに指導者（スポーツディストリビューター）発掘と養成が懸念される大きな課題である。日本体育協会のジュニアスポーツ指導員資格同等レベルの発育発達に応じたスポーツ・運動遊びの知識を有し、実践プログラム開発能力を有することが必須である。

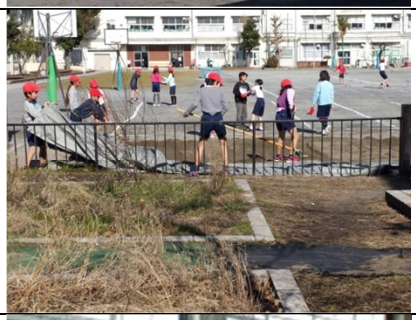
③小学校体育活動支援

課題と目的

小学校体育活動支援を通じて運動・スポーツ遊びを通じて、身体を動かすことの楽しさ、喜びを体感できる支援すること。

取組内容

体育の事業をサポートする形で支援。小学校体育コーディネーターで得た学校側からの強い要請に応えるような形となる。



工夫したこと

学校体育活動支援と放課後運動支援の時間を共有することにより児童に安心感を与えられるように工夫した。

取組の成果

楽しい体育、もっとやりたくなる体育をサポートすることが出来た。

今後の課題

この事業を継続させることが大きな課題である。

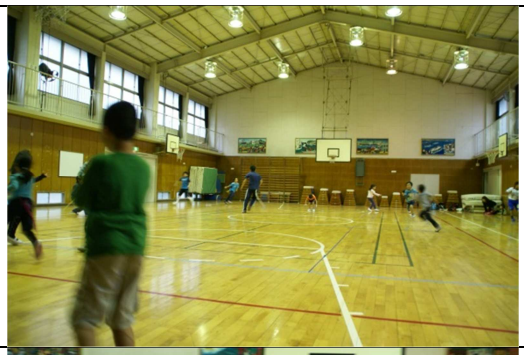
学校とさらに相互理解を深め、継続的にこの事業を続けることが望ましいと思います。学校の教員は異動していきますが、地域は異動しませんので地域で永続的にサポートしていく体制づくりが必要となります。

そのためには人材の発掘・育成、その資金つくりなど大きな課題が立ちふさがっていると言えます。

④小学校放課後運動支援

課題と目的

小学校放課後運動支援を通じて運動・スポーツ遊びを通じて、身体を動かすことの楽しさ、喜びを体感できる支援すること。



取組内容

　コーディネーショントレーニングなどの楽しい遊び感覚での運動を行い、動きの獲得、運動量の確保を行った。

工夫したこと

　学校体育活動支援と放課後運動支援の時間を共有することにより児童に安心感を与えられるように工夫した。

　放課後に運動遊びすることで児童間のコミュニケーションを活性化さつつ、帰宅までの時間を楽しみながら過ごせるように工夫した。

取組の成果

　楽しく参加してくれる児童が増え、運動遊びが好きになった。

今後の課題

　この事業を継続させることが大きな課題である。

　学校とさらに相互理解を深め、継続的にこの事業を続けることが望ましいと思います。学校の教員は異動していきますが、地域は異動しませんので地域で永続的にサポートしていく体制づくりが必要となります。

　そのためには人材の発掘・育成、その資金つくりなど大きな課題が立ちふさがっていると言えます。

⑤中学校運動部活動支援

課題と目的

専門領域を超えて共有しておきたい能力向上をめざし、コーディネーショントレーニングなどで基礎運動能力の改善を目指すプログラム支援を行う。

教職員、地域スポーツ指導者が体育およびスポーツの必要性を再認識しその具体的指導手法の獲得が期待される。

学校と地域スポーツが融合した学校体育と社会スポーツの融合モデルとして生涯スポーツ文化の礎になることが期待される。

取組内容

教職員にコーディネーショントレーニングの必要性を理解してもらうために 6/18(水)に第 1 回「中学校運動部活動支援のためのコーディネーショントレーニング講座」を横浜吉田中学校体育館で開催実施。横浜吉田中学校職員 35 名が参加。横浜市教育委員会、横浜市体育協会からも視察。

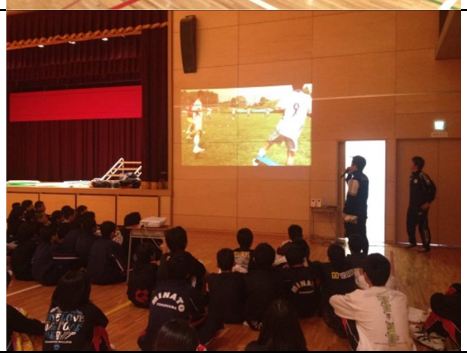
1/11（日）第 2 回「中学校運動部活動支援のためのコーディネーショントレーニング講座」を横浜山手中華学校体育館にて実施。

工夫したこと

コーディネーショントレーニングの基本的な考え方のに止まらず、体幹バランストレーニングまでも指導、意識改革を促す工夫を行った。

取組の成果

第 1 回講座では横浜吉田中学校教職員 35 名が参加。コーディネーショントレーニングの理解を深め各部活動へ意欲的に反映させた。第 2 回講座では、区内中学校 4 校からバスケットボール部員、女子 25 名男子 50 名が参加。コーディネーション TR、体幹バランス TR を楽しく体験した。

今後の課題

教職員への研修から始まり、生徒・部員への講座と広がり、今後はバスケットボールから他種目へ、さらに中区から全市へと広げることが課題と言える。